

【教育目標 夢中になる とともに創る】



きらきら



新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和7年11月21日発行

沼垂幼稚園 111 年目 大切にしている3つの「一」★★★「一人一人」「一緒に」「かけがえのない一年」★★★

その子なりの探究

園長 関根 秀也

「小学校に行ってきます」「どきどきするな」「どんなことをするのか」…10月下旬から11月上旬に小学校の就学時健診が行われ、来年度小学校に進学する年長児が、それぞれが生活する学区の小学校に出掛けていく機会がありました。沼垂幼稚園は、公立小学校につながる教育活動を大切にしています。年長児が幼稚園での学びを自信にして、新たな日々に期待をもって、小学校の門をくぐってほしいと願っています。

幼稚園では、遊びが子どもの学びです。その遊びは、子どもが自発的に活動するものでなければなりません。遊び方が決まっていることを人から与えられるのでは、子どもの学びは深くなりません。

小学校以降では「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を重視して、授業力や教師力の一層の向上に取り組んでいます。公立幼稚園でも、学校教育の始まりとして「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学び」(≡当園の教育ビジョンにある目指す力を育む遊び)を意識して教育活動を進めています。その学びが「深い」もの、「個別最適」なもの、「協働的」なものになるよう、これまで以上に子どもたちの興味・関心を捉え続けること、個々の育ちをしっかりと見ていくことが重要だと考えています。これらの学びの一つの視点として、文部科学省から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の姿が示されています。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体 ○自立心
- 協同性 ○道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり ○思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現



沼垂幼稚園では、様々な場面で、この 10 の姿を視点に日々の保育を振り返ることで教育課程の工夫と改善を繰り返しています。この 10 の姿は、小学校以降とは違い、できなくてはならない基準や目標ではありません。例えば、幼稚園の段階では、文字や数字が正しく書いたり読んだりできなくてもいいのです。遊びの中で、文字や数字を表現のツールとして子ども自身が必要を感じ、書いてみたい、読んでみたいと思い、繰り返し用いてみようとする姿、つまり・・・

子どもが、物事に興味・関心や必要感をもち、

個々の課題を乗り越えようと試行錯誤する過程⇒「その子なりの探究」

が日々の教育活動で見られるかということが大切なのです。当園では、この「その子なりの探究」が、小学校で文字や数字を学び、表現する学習の場面で発揮され、様々な課題を乗り越えていく力につながっていくと考えています。そこで、遊びの中で現れる「その子なりの探究」を支える保育を大切にして、幼児教育の拠点園として保育力や教師力の向上のために研修に励んでいます。当園の保育や教育課程については、研究公開保育を通じて、市内の幼稚園、保育園、こども園、小学校、教育行政の関係者の参加をいただき、小学校との円滑な接続を含めて、助言をいただいたり、学び合ったりしているところです（今年度の研究公開保育は、全4回のうち2回を終え、この後12月と2月に予定をしています）。

幼児期は、すべてが未発達です。それだけに、人がもっている様々な力を引き出せるように教育活動を工夫していく必要があります。沼垂幼稚園では、子ども一人一人の可能性を信じて、どの場面で、どのような力が発揮されるのかを丁寧に見取り、「その子なりの探究」をこれからも支えていきます。

今月の「きらきらな笑顔」



アイドル
のコンサ
ート！
歌と踊り
で盛り上
がります

葉っぱの
お布団は
気持ちい
いよ！

